

文部科学省 情報技術人材育成のための実践教育ネットワーク形成事業  
 分野・地域を越えた実践的情報教育協働ネットワーク（enPiT）

2015年 enPiT 大学向けアンケート調査結果 *Executive Summary*

## ■ 調査の趣旨

「情報技術人材育成のための実践教育ネットワーク形成事業」（enPiT<sup>1</sup>）では、情報技術を高度に活用して社会の具体的な課題を解決できる人材の育成を目指して、大学と産業界の連携により、課題解決型学習等の実践的教育を全国で推進するための取り組みが進められている。本事業では、2013年度より、enPiT の拠点校に全国の大学・大学院から参加学生を受け入れて、PBL 等の実践教育を提供している。今後は、enPiT を中核として、このような実践教育のさらなる普及・拡大を進めていくことが重要である。

こうした問題意識を踏まえて、2015年も、国内の情報系専攻（大学院）に対して、**PBLのような実践教育の普及状況や実施に関する課題のほか、enPiT に対するニーズ等を把握する**ことを目的とするアンケート調査を実施した。なお、2015年5月に実施された本調査は、2013年2月の第1回調査、2014年5月の第2回調査に続く第3回目の調査と位置づけられる。今回のアンケート調査の結果は、情報系専攻における実践教育の普及の実態の把握とともに、今後の普及・促進に向けた検討等において活用される予定である。

## ■ 調査の概要

今回実施した大学向けアンケート調査の概要は、以下のとおりである。

調査対象	大学院の情報系・電気電子系の専攻（249専攻） <ul style="list-style-type: none"> <li>理工系情報学科・専攻協議会に加盟している専攻</li> <li>上記以外の情報工学系の専攻、又は、情報系領域を含む電気電子系の専攻</li> </ul>
調査期間	2015年4月下旬～5月上旬
調査方法	郵送アンケート調査
回答率	249件中185件 【回答率 <b>74.3%</b> 】
調査内容	<ul style="list-style-type: none"> <li>実践教育の実施状況</li> <li>実践教育の重視度</li> <li>実践教育の充実化の必要性に対する認識</li> <li>実践教育の実施に関する課題</li> <li>enPiT の認知度</li> <li>enPiT への学生の派遣に対する関心度 等</li> </ul>

<sup>1</sup> enPiT : Education Network for Practical Information Technologies

## ■ 調査結果のポイント

2015年の調査結果のポイントは、以下の4点である。全体的にはenPiTの継続的な実施により、国内の情報系専攻の間で実践教育を重視する動きが促進され、**enPiTが掲げた「実践教育の拡大・浸透」という目標が、enPiT参加校を超えて広い範囲で実現されつつある**ことがうかがえる。

### Point1

**enPiTの認知度は過去最高に  
～多くの情報系専攻がenPiTを認知～**

enPiTの認知度について「何らかの形で参画している」、「内容をある程度知っている」、「名前は聞いたことがある」という回答の合計は**73.5%**となり、**過去3年間の調査の中で最も高い認知度を達成した。**

### Point2

**enPiTへの学生の派遣に対する  
関心も拡大**

enPiT認知度の上昇に加えて、enPiTへの自校学生の派遣に対する関心も年々高まり「非常に関心がある」、「ある程度関心がある」を合わせた回答の割合は2014年と比較して10%超上昇。**今回始めて5割を超えた。**

### Point3

**情報系専攻における  
実践教育充実化の意向は一層拡大**

現在実施している実践教育のさらなる充実化の必要性について尋ねた設問では「強くそう思う」、「ある程度そう思う」を合わせた回答が2014年から1割増加しており、**実践教育の充実化の必要性に対する問題意識が、より一層高まっている**ことがうかがえる。

### Point4

**実践教育重視の取り組みは  
enPiT参加校を超えて波及**

enPiTを始めとして情報系専攻の実践教育を重視する流れが拡大した結果、enPiT参加校以外においても、**実践教育を実施する教員の採用や評価といった実践教育の強化に向けた具体的な取り組みが広がっている。**これも**enPiTの実施・継続による成果の一つ**であると考えられる。

**enPiTの継続的な実施により、国内の情報系専攻の間で実践教育を重視する動きが拡大。enPiTが掲げた「実践教育の拡大・浸透」という目標は、enPiT参加校を超え、広い範囲に波及しつつある。**

以下には、上に示した各ポイントについて、図表とともに調査結果の要約を示す。

## ① enPiTの認知度は過去最高に ～多くの情報系専攻がenPiTを認知～

アンケート送付先である国内の情報系専攻に対して、enPiT（情報技術人材育成のための実践教育ネットワーク形成事業）について知っているかどうか、その認知度を尋ねたところ、図 1-1 のとおり、「事業に何らかの形で参画している」、「事業の内容をある程度知っている」、「事業の名前は聞いたことがある」という回答の合計は**73.5%**となり、**過去3年間の調査の中で最も高い認知度を達成した。**

特に、**enPiTに参加していない専攻（enPiT非参加校）の間での認知度が上昇している**点が注目される。図 1-2 をみると、enPiT非参加校の「事業に何らかの形で参画している」、「事業の内容をある程度知っている」、「事業の名前は聞いたことがある」という回答を合わせた割合は**72.6%**となり、**2014年の57.6%から15%も上昇している**点が注目される。

過去の広報活動等の成果により、enPiTは国内の多くの情報系専攻に知られる取り組みとなったといえる。

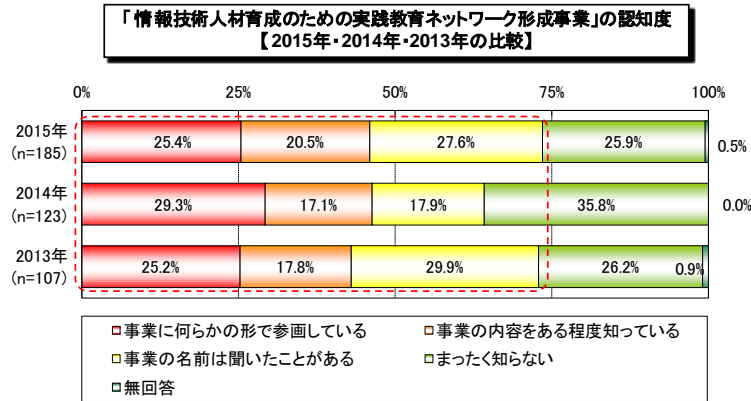


図 1-1 enPiT の認知度（経年比較）

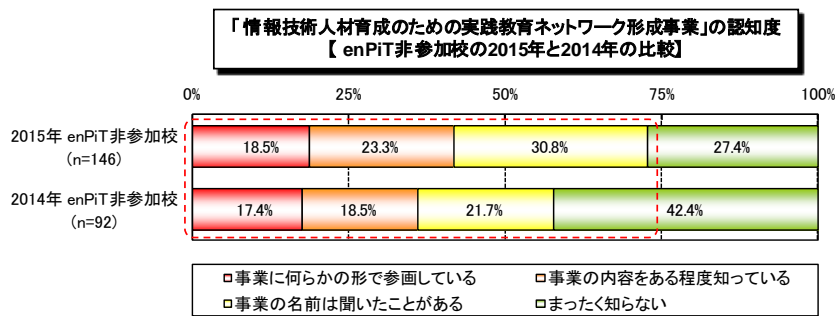


図 1-2 enPiT の認知度（enPiT 非参加校のみ）

## ② enPiT への学生の派遣に対する関心も拡大

enPiT の認知度の上昇に加えて、enPiT への学生の派遣に対する関心度も年々高まっている。

本調査に回答した専攻に対して、enPiT に自校の学生を派遣することに関心があるかどうか尋ねたところ、図 2-1 のとおり、2015 年調査では半数以上の専攻が、「非常に関心がある」、「ある程度関心がある」と回答した。「非常に関心がある」、「ある程度関心がある」を合わせた回答の割合は上昇傾向にあり、2014 年と比較して 10%以上上昇して、2015 年に始めて半数を超える結果となった。

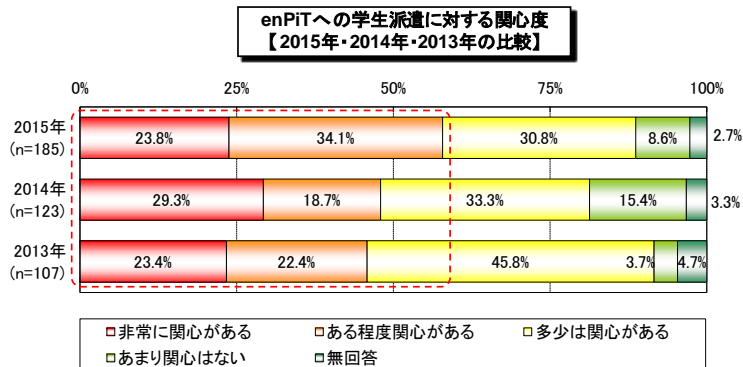


図 2-1 enPiT への学生派遣に対する関心度（経年比較）

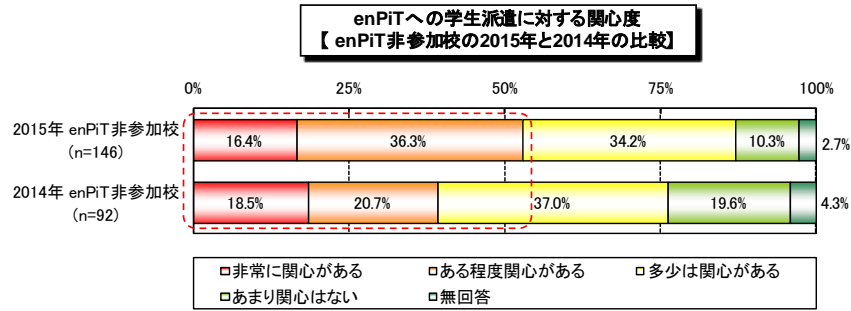


図 2-2 enPiT への学生派遣に対する関心度 (enPiT 非参加校のみ)

図 2-2 のとおり、今年度の enPiT に参加していない「enPiT 非参加校」についても、半数以上が enPiT への学生派遣について「非常に関心がある」または「ある程度関心がある」と回答している点が注目される。

enPiT の認知度とともに、実際の学生派遣に対する関心度も年々高まっていることが読み取れる。これは、国内の情報系専攻に、enPiT の教育効果が広く知られるようになった成果であるといえる。

### ③ 情報系専攻における実践教育充実化の意向は一層拡大

本アンケート調査では、実践教育に対する情報系専攻の意識として、現在実施されている実践教育のさらなる充実化の必要性について尋ねている。

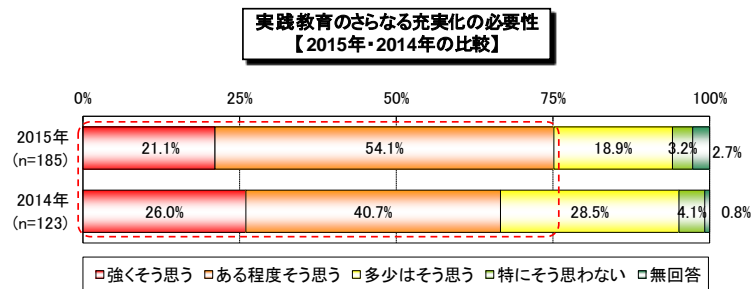


図 3-1 情報系専攻における実践教育のさらなる充実化の必要性 (経年変化)

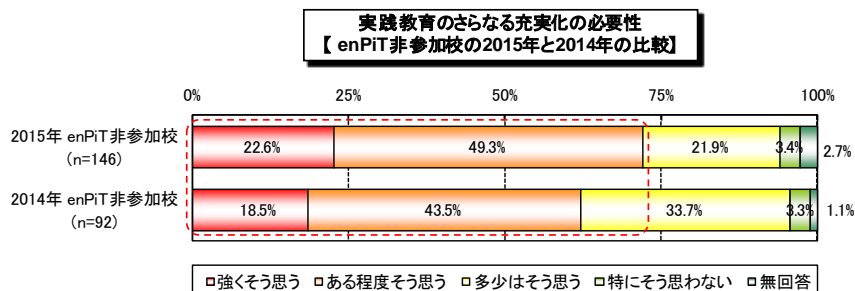


図 3-2 情報系専攻における実践教育のさらなる充実化の必要性 (enPiT 非参加校のみ)

図 3-1 をみると、2015 年は「強くそう思う」、「ある程度そう思う」という回答が 7 割を超えたほか、「多少はそう思う」をあわせると 9 割を超える結果となっており、多くの専攻において、実践教育の充実化の必要性が認識されていることが読み取れる。

図 3-1 の 2014 年の結果と比較すると、「強くそう思う」または「ある程度そう思う」を合わせた回答の割合が 1 割程度増加しており、**実践教育の充実化の必要性に対する問題意識は、より一層高まっている**とみられる。

その他、特に図 3-2 のとおり、**enPiT 非参加校においても、実践教育の充実化の必要性についての認識が拡大している**点は、大いに注目される。**実践教育を強化する流れは、enPiT に参加していない専攻に対しても広がりつつある**といえる。

#### ④ 実践教育重視の取り組みは enPiT 参加校を超えて波及

本調査では、実践教育の充実化に向けて各専攻が実施している具体的な取り組みについても尋ねている。図 4-1 (左) は、これらの取り組みを enPiT 参加校と非参加校で比較したものであるが、特に enPiT 非参加校の回答に着目し、図 4-1 (右) のように、「産業界（企業等）での実務経験を有する教員を採用している」、「実践性の高い教育を実施した教員を高く評価している」という**教員の採用と評価に関する取り組みを 2014 年と比較すると、2014 年から 2015 年にかけて回答割合が上昇している**ことが読み取れる。

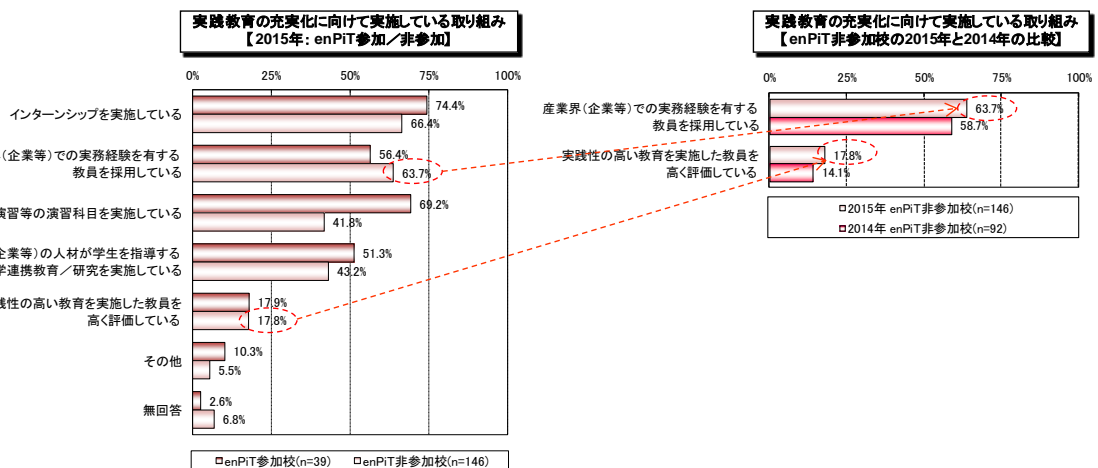


図 4-1 情報系専攻における実践教育の充実化に向けて実施している具体的な取り組み

enPiT を始めとして、情報系専攻の実践教育を重視する流れが拡大した結果、enPiT 参加校以外においても、**実践教育を実施する教員の採用や評価といった実践教育の強化に向けた具体的な取り組みが広がっており、これも enPiT の実施・継続による実践教育の普及の成果の一つである**と考えられる。

◇◆◇

2015 年の大学向けアンケート調査の結果から、**enPiT の成果は、enPiT 参加校を超えて広く波及しつつある**ことが把握された。今後は、enPiT の取り組みの深化・充実化を図ることで、この波及効果をさらに大きなものとしていくことが期待される。